

世界ではWHO脱退する動きがどんどん加速しています！

ご存知ですか？

パンデミック条約とは？

緊急の名のもと、WHOが法的拘束力で一方的に指示強制可能な条約(合意)です。

何が問題なのか？

世界保健機関（WHO）は各国に公衆衛生に関わる勧告をする組織です。しかし新型コロナパンデミック対策をmRNAワクチンで進め、大きな失敗をしたのにもかかわらず、新たな法的拘束などを伴う条約の制定を進めています。それが国際保険規則（IHR）改悪とパンデミック条約（合意）です。パンデミック時に国家主権や人権の侵害、ワクチンパスポートやワクチン接種の義務/強制、言論の取り締まりなどが改定に含まれ、枠組みだけで中身は不透明なまま様々な条約の変更が行われています。この条約（合意）改訂規定はR7・4月WHO加盟国で合意されてしまいました。我々国民には知る権利がありますが、これだけのひどい条約にもかかわらず、国民の知らないところで強引に合意した事で、私たちの残された選択は早急に、【WHOからの脱退】を宣言し、国民1人1人がその危険性に気がつき声をあげる必要があります。

WHOテドロス・アダノムとビル&メリンダゲイツ財団

WHOにビル&メリンダ財団やワクチン関連団体がアメリカやドイツより多い資金を提供し、利益相反のもとで発言がWHO政策に影響力を持っていることから、この条約の規定の経緯と信憑性に不信や疑念が募ります。『ワンヘルスワンワールド』とは『公衆衛生全体主義』につながり、国の主権を超える強い権限をWHOに与えると言う、あってはならない内容です。アメリカやその危険性に気がついた国が今、続々と脱退しています。日本は、この危険性を公にするどころか私たちには知らせず、水面下で推進し、条約と歩調を合わせた国内の法整備を閣議決定を通さずに行われたものもあり、国民の反対意見も無視。その内容も私たちは知ることができず、選挙で選んでもいない人が勝手に国家主権を超えてしまう可能性のある条約(合意)がされ、日本国民の人権と権利を侵害する条約(合意)である事は多くの国民が知らない事実です。私たちは【WHO脱退】が唯一、残された道となりました。多くの人にこの事実を知ってもらうことが今とても重要です。

WHOが
強制力を持つ立場へ

自由・人権の剥奪

WHOに絶対服従

言論統制・情報の検閲

ワクチンパスポート

ワクチンの義務化

具体的な治療法の義務化

ロックダウン・
国民の監視

※説明動画



WHO
パンデミック条約



※詳しくは上記のQR動画をご覧ください

